

## 2006 IAAF 国際陸上連盟選手会会議参加報告

室伏広治(ミズノ)

9/30-10/1 に国際陸上連盟(以下 IAAF)の選手会会議、9/30-10/2 に世界アンチドーピング・シンポジウムがスイスのローザンヌで行われ、私たち選手会メンバーは午前中に選手会会議、午後からはシンポジウムに参加するスケジュールが組まれた。今回の選手会会議には、エルゲルージュ、フレデリクス、ヘミングス、コンリー、サンチェス、ラドクリフ、ディアガナ、ファーガソン、チェブラック、プリヴァロヴァ、私が出席した。最初にディック会長も顔を出され、選手会への激励のお言葉と、陸上競技の発展、ドーピングとの戦いについて話された。その後、チェアマンであるフォントレノ委員の進行で会議は、議題に沿って進められた。今回、選手会のそれぞれのIAAF主催の主要大会の視察レポートを含め、様々な議論の中でも、ドーピングの問題に多くの時間を使われた。世界アンチドーピング・シンポジウムと日程を並行して開催されたことは、選手の立場の中から議論や発言等の期待があったためであると思われる。その中で、日本のメディアの関心が少なかったことはとても残念であったが、今後もアンチ・ドーピングにおいて関心度が高まることを期待したい。視察レポート発表では、私の担当である世界クロスカントリー選手権福岡大会のレポート発表を行った。特に、来年大阪で世界選手権が開催されるということもあり関心が強かった。

## **議題**

### **1. オープニング**

### **2. 前回会議の内容確認**

### **3. IAAF 諸報告**

### **4. IAAF 選手会の概要、活動についての確認**

#### 4.1 2007 選挙について

### **5. 選手会メンバーによる、2007 IAAF 主要大会視察振り分け**

#### 5.1 世界クロスカントリー選手権 ケニア・モンバサ大会(3/24,2007)

#### 5.2 世界ユース選手権 チェコ共和国・オーストラリア大会(7/11-7/15,2007)

#### 5.3 世界選手権 大阪大会 (8/24-9/2,2007)

#### 5.4 ワールドアスレチックファイナル ドイツ・シュツツガル大会(9/22.23,2007)

#### 5.5 世界ロードランニング選手権 イタリア・ユーダイン大会(10/14,2007)

### **6. 2006 選手会による主要大会視察報告**

#### 6.1 世界室内選手権 ロシア・モスクワ大会…… イスマイル(カタール)

#### 6.2 世界クロスカントリー選手権 福岡大会…… 室伏

#### 6.3 世界競歩カップ スペイン・ラコルナ大会…… ラドクリフ(イングランド)

#### 6.4 世界ジュニア選手権 中国・北京大会…… コンリー(アメリカ)

#### 6.5 ワールド・アスレチック・ファイナル ドイツ・シュツツガル大会…… フレデリクス(ナミビア)

#### 6.6 ワールドカップ ギリシャ・アテネ大会 ……ヘミングス(ジャマイカ)

### **7. メディカルとアンチ・ドーピング**

#### 7.1 サプリメント

#### 7.2 アンチ・ドーピング教育

#### 7.3 Whereabouts プログラム

#### 7.4 Whereabouts ミステスト

#### 7.5 検査手順について

#### 7.6 テストの透明さ

### **8. AR の認定についての条件**

### **9. IAAF 世界主用大会のスケジュール及び大会のあり方、考え方**

### **10. IAAF カウンシルメンバーへの議題案提案について**

### **11. その他確認事項**

### **12. 次回会議開催地、及び開催日程について**

## 主な議題内容及び提案

4.1 では、選手会の選挙において、すべての委員の入れ替えを同時にすることは、今までの積み重ねが無駄になる可能性があることから、今までメンバーの中の6名を2009年6月まで残す中で選挙を行う提案。大阪で行われる選挙は、選手村が6つのホテルに分かれていることから6日間に分けて各ホテルで投票を行うことが提案された。

5.の2007年度IAAF主要大会の視察担当は以下のメンバーにきまり、IAAFに提案される。

- 5.1 世界クロスカントリー選手権 ケニヤ・モンバサ大会(3/24,2007)・・・エルゲルージュ(モロッコ)
- 5.2 世界ユース選手権 チェコ共和国・オーストラリア大会(7/11-7/15,2007)・・・プリヴェリョワ(ロシア)
- 5.3 世界選手権 大阪大会 (8/24-9/2,2007)・・・フレデリクス(ナミビア) + コンリー(アメリカ)
- 5.4 ワールドアスレチックファイナル ドイツ・シュツツガルト大会(9/22.23,2007)・・・ヘミングス(ジャマイカ)
- 5.5 世界ロードランニング選手権 イタリア・ユーダイン大会(10/14,2007)・・・チェップラック(スロベニア)

6.において、各主要大会の報告があり、私は福岡世界クロスカントリー選手権の担当で、レポートとアンケート調査の発表をした。

### <福岡クロカン調査>

2006年4月、福岡で世界クロスカントリー選手権が開催された。視察ポイントは以下の通りであった。

#### 1.宿舎の環境

各国選手、コーチはシーホーク・ホテルに宿泊。ホテル環境は良く、海に面したきれいな場所で部屋の品質も良かった。

## 2. 食堂での食事

おおむね、選手やコーチからの不満は無かったが、いくつかのコメントがあったので紹介した。

- a) もう少しパンやシリアルの種類を豊富に準備してほしい。
- b) 南アフリカの選手から、アジア料理中心でなく他の大陸の選手のためにも、種類を増やしてほしい。
- c) また、別の意見では逆に、何故日本食が少ないのかという海外選手の意見もあった
- d) 日本選手のコメント
  - i 毎朝、味噌汁とご飯を食べたかった。
  - ii 毎日同じメニューであった。もっと魚など、シーフードを食べたかった。
  - iii もっと日本食を食べたかった。
- e) オランダのコーチからのコメント
  - i 全体的に脂質の多い食事であったので、少なくしてもらいたかった。
  - ii 手の込んだものより、シンプルにパスタに自分の好きなソースやトッピングをかけられるようなスタイルにしてもらいたい。
  - iii パンに脂質、糖分が多すぎる。

## 3. 移動

ホテルから試合会場に行くバスは、ピーク時にはとても混み合いスムーズではなかった。込み合って選手が席に座れず、試合前にもかかわらず通路で立っていた。ピーク時にはもう少しバスの本数、そして 15 分でなく、10 分おきくらいに出すことが望ましかったと思われる。

## 4. 利便性(言葉の問題等)

今回の福岡大会では、英語があまり通じないため困るという意見が多数あった。選手やコーチからの要望で、英語の標識のようなものを作ってほしいという意見が多かった。

## 5. 福岡到着後の選手、オフィシャルへの対応(送迎、ウエルカムデスク、ホテル・チェックイン等)

今回の大会で一番多かったクレームは、選手、コーチがホテルに到着してからの対応であった。いくつかの遠いアフリカから到着した多くの選手やコーチは、朝ホテルに到着したが、部屋の準備ができていなかったため、6 時間もロビーで待たされた。ただでさえ遠くから来てストレスがあるにもかかわらず、スムーズに出迎えてもらえないことは、選手やコーチへの負担は大きい。到着直後に部屋に移動できるようにするべきであった。リポート発表時に、ある委員の方からの話で、あるブラジルの選手は部屋が無く外で寝たという話をしていた。

## 6.ウォームアップエリア

特に問題はなかった。

## 7.コールルーム

特に問題はなかった。

## 8.ミックスゾーン

おおむねスムーズに行われ、特に問題はなかった。

## 9.インタビュールーム

しっかりとコーディネートされていて、特に問題はなかった。

## 10.タイムテーブルの正確さ

特にコメントは無かった。

## 11.ファイナル・パーティー

特に問題はなかった。

## その他

ワイヤレスネットワークが無いこと。ランテーブルの貸し出しも要求する人すべてにわたらなかった。

日本では海外の電話が使用できないため、通信手段として携帯電話のレンタルがあると便利であるという声が多かった。ウエルカムボックス等に、それらの情報を入れてもらいたい。

(この詳細については、添付資料を参照)

## 福岡クロカンの感想

今回のレポートは来年、世界選手権が大阪で開催されるということもあり福岡クロカンの情報は大変参考になったということであった。私自身、投てき選手として各国の長距離選手と接しながら、多くのことを学ぶことができ、また大会の運営の難しさ、多くの人を満足させることの大変さが、ほんの少しはわかったように思う。しかし大切なことは、選手やコーチの立場に立って大会が運営されることが、大会成功の秘訣ではないかと思った。

**7.のアンチ・ドーピングでは、以下のことが IAAF に提案されることとなった。**

- 1) A サンプル検査確認後から、B サンプルの検査確認までの期間の短縮する提案 (2 週間)。
- 2) アウト・オブ・コンペティションテストの ミステスト
  - a) 選手に 2 週間以内にミステストであったことを通達すること
  - b) 選手は 2 週間以内になぜ、ミステストであったかを説明すること
  - c) IAAF は選手の説明をもとに、2 週間以内に結果報告を行うこと
- 3) 検査員が選手を探す最終手段として電話を使用することを提案し、電話をしたときの日時を記録すること。  
また、選手が電話に出られなかった場合、その後、コールバックに要した時間を記録することも提案。
- 4) Whereabouts のミステストによる違反者の競技会 5 年間出場停止を 2 年にすべきことを提案。
- 5) 選手会は、ドーピングコントロール検査結果データを各選手につき、年 1 度発表することを提案。
- 6) 選手会は、ドーピングによる出場停止期間を現在の 2 年でなく、4 年間の出場停止に戻すことを強く提案。
- 7) 選手会は自分たちの競技をフルサポートすると共に“クリーン・アスリート・クラブ”の思想とアイデアをバックアップしつつ、その実現に向けて全面的に関与することを願っている。

その他、以下のことが話し合われた。

- \* 選手の Whereabouts のしっかりとしたアップデートをすることの確認。
- \* コーチや指導者、若い選手たちへのクリーンアスリートを目指すアンチ・ドーピングの教育。
- \* トップ選手のドーピング陽性による陸上競技へのイメージ懸念。
- \* 世界トップ選手による薬物の陽性反応のスキャンダルは、陸上競技の印象を著しく悪くする。しかし、有名選手でもしっかりと検査することは、それだけドーピング問題に真剣に取り組んでいる競技団体であると言える。
- \* トップ選手によるドーピングに関する軽率な問題発言について。  
時よりトップ選手は、ドーピングに対する軽率な発言をすることがある。これも大変陸上競技の印象を悪くするものであるので気をつけたい。

## 感想

現在、アンチ・ドーピングにおいて、ドーピングに手を出すな！というように選手を取り締まることだけ伝えようとしているように思える。若い選手がある一線を越えてしまうか、踏みとどまることができるか。それは、どのような道を通り、チャンピオンになるか。どのようにすれば目的を達成することができるかということを、もっと積極的に、各国の土壌で培った純粋なスポーツ体験を、若い選手達に手ほどきをしてゆくことが大切だと感じた。スターウォーズを見た人ならわかるが、フォースとダークフォース。ちょっとした軽率な行動によって自らが知らないうちにダークサイドに引かれていく。ダークサイドに引っ張る人は一見とても優しく、自分自身のことを考えてくれそうな人のように見えるが、実はダークサイドに引きずり込む手口に過ぎない。ダースベーダーにならないうちに、正しい方向へ導きたい。

世界のドーピング事情は深刻で、スポーツのイメージを汚し青少年の育成という観点から考えても健全ではない。検査をすり抜ける方法も巧妙になっており、3つの主用検査機関、WADA、NADA、IAAFも違反者を捕まえるために、ばく大な費用とエネルギーを使っている。今、選手自身のモラルが問われている。しかしながら、選手として試合をする対戦相手を疑うことも良くは聞こえない。取り組みで、対戦相手に敬意を表する儀式をする日本の国技相撲のようにあるべきである。“手のひらを返し、手に武器はない、あなたに対して敵意を持ってない、すばらしい取り組みにしたい”。はっけよい…のこった…の、はっけ(八卦)は占いである。八卦とは、易学の八卦から来ており、八卦を占いすべてが良い、さあ何の心配もない、この晴れがましい土俵上で堂々と戦え！ということである(中西進著、日本人の忘れ物)。フェアプレー、オリンピックの精神を見直したい。今回の会議を通して、自分たちの大好きなスポーツを守るための活動は、日頃の練習と同じように大切なことであることを再認識した。スポーツ関係機関だけの問題ではない、薬物使用においては、国も深刻に将来の子供の育成に取り組んでほしい。

## 8. ARの認定についての条件

各連盟からIAAFにARの申請をする前に、その人達の犯罪歴をチェックすることを願いたい。その犯罪歴のチェックがないものは、IAAFが受理しないことを願う。

## 会議に参加して

今回会議に参加して、選手側の立場から様々な問題点を考えることの重要性を感じた。それは実際に競技をしている選手にしか見えない部分も多くあるからである。そしてそれらの意見をIAAFは大切にしていることを感じた。日本でも、このようなシステムがあれば素晴らしいと思う。ただし突発的な個人的な意見ではなく、会議を開き、より選手や関係者が競技を楽しめるように、しっかりと慎重に意見交換をしながら行うことが大切だと思われる。